

## 市民による生き物調査（植物班） [2014年度 2015年度]

〔調査期間〕 2014年12月26日～2015年08月10日

〔調査地〕 渡良瀬遊水地第二調節池・湿潤環境形成実験地及び水位安定型実験地

〔調査期間内の植生の移り変わり〕 前回の報告した2014年12月から2015年8月10日までの、湿潤環境形成実験地及び水位安定型実験地の調査の概要を記す。

市民調査の実施日は・4月12日/5月24日/6月14日/7月19日/である。

2014年12月から冬季の間、水位安定型実験地及び 湿潤環境形成実験地の水たまりは水の溜まった状態が続いた。水面は凍って、北風により氷が砕け、シャーベット状となり、南岸に打ち寄せていた。全面氷結はしていなかった。

枯れた草は草丈50cm程度で、まばらで見通しが良かった。地面はぬかるみになっている場所がほとんどだった。

遊水地では3月22日にヨシ焼きが行われたが、調査地は燃えなかった。4月12日の調査では降灰が水際に溜まっていた。

5月24日の調査では工事用道路側の斜面部はヨシやオギ等の植物が成長して道路から調査地底面はほとんど見えない。部分的に草刈りして、下に降りる道をつくる。

底面は遠目には草原状態、一年前とは全く違う。(一年前は、ほぼ全くの泥裸地。発芽した植物の種名を見極めるのが困難な状態。ヒメガマ等の植物は、数cmの発芽状態。)

底面はヒメガマ、セイタカアワダチソウ、ヨシ等が50～60cm程に貧弱にまばらに伸びている。地面(泥)の部分の割合が半分近くあり、裸地と呼べるか微妙なところ。

水たまりの部分は水が溜まってはいるが、水面は小さくなっている。

水際にはヒシやオオアブノメを僅かに確認。ミズユキノシタは生育面積と生育地点が増えて新芽も出ている。(生育地点は4カ所程。水はなく、ぬかるみ状態。一つの占有面積は直径20～30cm程。)

昨年確認したのと同地点でアゼオトギリを観察した。

6月14日の調査では工事用道路側斜面から、調査地底面は全く見えなくなった。

底面は草丈はあまり先月と変わっていないが、草の量が増えた。もう、裸地とは呼べない状態。水たまりの水量も先月より多くなっている。

一年前は6月中旬に調査地底面が水没したが、今年はまだ一度も水没していない。

7月19日の調査は晴天であったが、前日まで続いた大雨のため、調査地は水没しているとの事。部屋地区の桜堤に集合場所を変えて、ヨシ再生実験地を観察した後、湿潤環境形成実験地まで、工事用道路を歩き観察を行った。

昨年同様、工事用道路は全く水を被っていなかった。道沿いのオオブタクサ、ゴマノハグサ、イシミカワ、アゼオトギリ、ホソバオグルマ類を観察しながら調査地へ向かう。

湿潤環境形成実験地 は道路下20cmあたりに水面があり、2mを超えたヨシに阻まれ、調査地内部を覗き見る事もできなかった。水深は2m以上(底面までは高低差は2m以上ある。)

この状態は地内水路(石川排水路など)の水が逆流して調査地に入り込んでいる状態であり、調節池として機能している事を意味している。

これら、市民調査の日の他に、個人的に観察を行った。

7月10日には、底面、東部でホソバオグルマ及びサクラオグルマと推定されるものを少数確認。ジョウロウスゲを一株、ウキアゼナを一個体確認した。

8月10日には底面、西部の水たまりで、コカナダモの群落(約5m×5m程度)を確認した。これは初の沈水植物の確認である。また北部で数株であるが、ヒメシロアサゲを確認した。地内水路と接するあたりでは、マツカサスキの群落が広がっている。

西北側の一部にアメリカカキシグサの群落(1×1m程度)も確認できた。

帰化植物の侵入は想像以上に早く、種数も多い。

2015年9月記 長島永幸



2015.10.18

## <参考>

市民による生き物調査（植物班）のまとめ【平成26年度・2014年度】

【調査期間】 2013年10月19日～2014年12月26日

【調査地】 渡良瀬遊水地第二調節池・湿潤環境形成型実験地及び水位安定型実験地

【調査地概要】 調査地は国土交通省の湿地再生事業で2013年1月～2013年10月にかけて掘削された。石川排水路と地内水路の合流部東側につくられた、ワンド型の素掘りの調節池で、この底面が湿潤環境形成型実験地となっている。その中央部に地下水で涵養される様に掘られた水位安定型実験地がある。

このワンド型調節池、形状は石川排水路に平行して、縦は約500m強、横は約200mの長方形。北西側（縦）は石川排水路の堤防部、標高約16m。北東側（横）は掘削されていない旧地形面で標高約15mのヨシ群落。南東側（縦）は工専用道路で標高約16m。南西側は底面から続く掘削された泥裸地で、標高約12m。この南西側が地内水路となだらかに接していて、一部が、比高1～2m土の崖状になっている。調査当初の調節池側は水路際まで整地され、平坦な素掘りの状態で無植生。水路と接する排水溝等は全く無い状態であった。掘削されなかった水路側崖下はヤナギの高木がまばらに生え、林下にはカササゲやタデ類が生育し自然度が高い状態であった。

【調査期間内の植生の移り変わり】 ワンド型調節池の掘削終了直後に調査（観察）を開始した。10月から冬を経て春先の3月まで、湿潤環境形成型実験地及び水位安定型実験地である底面部とそれを取り囲む側面部（護岸部分）は全く素掘りの土がむき出しの状態であった。工専用道路から全景が一望できる状態であった。

3月30日の調査では、底面部では植物の種をほとんど確認できず。側面部ではハルジオオン、タネツケバナ類、ハハコグサ、トキワハゼ、ミゾコウジュ等の越年草が目立つ。北東側の底面より、50cm程高い部分でアゼオトギリが10株程見られた。

4月20日の調査では植物の芽生えが観察できた。相変わらず一見すると泥裸地だが、掘削池の水際や側面部と底面部の接する部分ではヨシの破片や新たな泥の堆積が見られ、ヤナギ類、イシミカワ等のタデ類が線状に発芽している。主に南東側に堆積していることから季節風である冬の北風の影響であろう。側面部ではオヘビイチゴ、セイタカアワダチソウ、ミゾコウジュ、ホソバオグルマ、ツルマメ、タコノアシ、アリアケスミレ、ハナムグラ、ノウルシ、イヌゴマ等が芽生え、裸地が縁に覆われてきている。

5月25日の調査では道路と底面との側面部ではヨシが伸びだし、ミゾコウジュ等の花が咲きだした。オヘビイチゴ、アオヒメタデ、ハナムグラも咲く。しかし底面部は相変わらずの泥裸地状態。4月に発芽した植物も水位変動によって枯れ、新たにヒメガマ等の発芽が見られた。

6月に入ると週末毎に大雨。6月13日頃には地内水路の水が入り込み底面は全て水没してしまっただけでなく、6月15日の調査は中止となった。6月15日は晴天で、個人的に調査を行った。道路側、側面部はヨシが人の背丈程伸びて見通しがきかなくなっていた。それでも密度はまばらな為、底面部へは入っていける。底面部はすでに水がかなり引いていて、草丈1m程のヨシが所々まばらに生えている。側面部水際のタネツケバナやハルジオオン等の越年草はほとんど枯れた。

7月13日の調査では底面部は泥裸地がまばらな緑で覆われた状態。植物の種類が確認できる様になってきた。ヌマトラノオ、ヒメガマ、タコノアシ、セイタカアワダチソウ等の多年草やホソバオグルマ、ヤナギタデ、トキンソウ、サデクサ等の一年草が確認できた。

側面部はヨシが密生して人の背丈を超え、道路から底面部を見ることできない。側面部道路沿いではイヌゴマ、ニガクサ、アオヒメタデ、ガガイモ、ゴマノハグサが見られた。

8月10日の調査は暴風雨となり、途中中断となった。底面部ではチョウジタデ、アメリカアゼナ、等の一年草水田雑草やイネ科やカヤツリグサ科の一年草が目立ち散在する状態となった。石川排水路側の底面部はヨシやセイタカアワダチソウが人の背丈を超えて、やや密生しだし、入り込むのが困難になってきた。それでも細い株が多いので入ろうと思えば入れる状態である。道路側の底面部、標高12m70cm付近、水深3～5cm程の泥裸地でミズユキノシタが2株確認できた。埋土種子由来と推定され貴重である。

9月21日の調査ではミズアオイが確認された。

10月以降は調査日が無いので、個人的に調査した結果を簡単に述べる。

9月、10月とヌマガヤツリやカンエンガヤツリ等の大型のカヤツリグサが散在し、実生のセイタカアワダチソウ、ヤナギ類が地表面に目立つ様になった。掘削された池の部分は年間を通して水があつたが水生植物は確認できなかった。埋土種子より発芽した植物は予想通り少なく、予想以上に帰化種の侵入が早かった。

12月に道路側側面部の一部が草刈りにより枯れたヨシが取り除かれた。底面部の出現植物については別紙に記す。

【追記 工専用道路について】 素掘りの調節池の南東側の工専用道路について少し記録する。道路は、ダンプが行き違い出来る幅があり、径1～2cm程の砂利が敷かれ、未舗装だが固い。道路上は全くの無植生。砂利はコンクリートや鉾津が混じる。

現状では、第二調節池を南西から北東に伸びる、幅10m、比高3～4mの小型の堤防と見て良いと思う。6月の増水時でも全く冠水しなかった。現時点ではこの道路由来の帰化植物の進入は確認されていない。

2015年1月 長島永幸 記



## 「現況」

\* 平成 12 年に、「渡良瀬遊水地の野鳥目録」を作ったのですが、その時の渡良瀬遊水地の野鳥の種数は「254 種」でした。昨年その見直しをしたのですが、その結果、現在の渡良瀬遊水地の野鳥は「267 種 3 亜種」になります。更に 2 月 17 日に、野木の加藤さんが「シラガホオジロ」を見つけています。これは渡良瀬遊水地では初めてですので、渡良瀬遊水地で今までに確認されている野鳥は「258 種 3 亜種」になりました。

改定版では 2 種を外来種として削除したり、亜種等の整理をして、5 種を削除。新たに見つかったものとして 9 種を加えました。

新たに加えたものは「クマタカ、ハジロクロハラアジサシ、サンショウクイ、ツクシガモ、ナベヅル、オオモズ、センダイムシクイ、メボソムシクイ、シラガホオジロ」の 9 種です。

この中には、以前から幾度か渡良瀬遊水地に来ていたが、見落としていたものもあると思います。しかし見落とすことはないと思われるものとして、「クマタカ（平成 22 年、26 年）、ツクシガモ（平成 26 年）、ナベヅル（平成 27 年）、オオモズ（平成 27 年）」の 4 種があります。



(クマタカ・写真、加藤氏)



(ツクシガモ・写真、真瀬氏)



(ナベヅル・写真、真瀬氏)



(オオモズ・写真、真瀬氏)



(シラガホオジロ・写真、加藤氏)



(ムジセッカ・写真、真瀬氏)

更に、昭和 50 年以來、姿を見せていなかったイヌワシが、平成 23 年と 25 年に出現しています。ここ数年の間に集中して渡良瀬遊水地での初確認や長期間姿の無かった種が集中して出現しています。第 2 調節地で、湿地再生の工事が進行している他は、渡良瀬遊水地の自然環境に大きな変化はありません。野鳥はそれぞれの長い年月を掛けて習得した習性に従って行動をしています。習性の枠を超えて生息域を変えるということには、契機となる何かが必要です。どのような契機、どのような理由によるものなのでしょうか？それを考えておかなければならないと思います。

なお、最近遊水地、あるいはその周辺に渡来しているコウノトリについては、人の手による野生復帰種であるので、今日のところは除外します。

\* 最近の渡良瀬遊水地の野鳥の動向ですが、異常な気象が幾度かあり、野鳥はその影響を受けています。今越冬期は、例のないほど数が減少しています。

昨年 2 月 25 日の夜間の積雪が、ヨシを倒し、それを契機にチュウヒのねぐらが 2 つに分かれ、その後、古いほうのねぐらは使われなくなりました。植生に変化があったのかもしれませんが。

4 月 8 日に降雪があり、ヨシやスゲが一部、枯れました。オオセッカの繁殖には影響はなかったよう

ですが、オオセッカは繁殖環境の選択幅が狭い鳥です。今年の繁殖に影響が出ないかどうか、気がかりです。個体数も多いとはいえませんので、消滅の心配があります。

9月11日に大豪雨がありました。遊水地全域が水没し、水が引けた後も乾いたヘドロが下草の根元に張り付いていました。草の実を主な餌とする小鳥にとって、採餌は困難でしょうし、草の実そのものも不作だったと思います。穴居生活をするハタネズミ等はどうなったのでしょうか？逃げおおせたにしてもネズミ算式な繁殖は出来たのでしょうか？今越冬期のシードイーターや猛禽類の渡来数の減少はそれが原因と考えられます。

\* 一時的に全国的な大雪がありましたが、積雪量は全国的に少ないようです。寒さも一時的で、温暖な日々が続いています。

冬鳥も、山地の鳥も、この暖冬のおかげで、暖地に移動しなくても、採餌に困らず、寒さを避ける必要がないようです。遊水地の気象の悪影響もあって、今季の遊水地ははすごく野鳥が少ないのです。チュウヒのねぐら入り調査では、30羽～25羽で昨年の半分強でした。

しかし、珍鳥「ムジセッカ」の渡来があつたり、ケアシノスリが2年ぶりに姿を見せています。一面的な判断では、理解できないことが多々あります。

#### 「今後のこと」

\* 緊急的な課題として、オオセッカの保護があります。繁殖環境の選択幅の狭い鳥、とされ、先進各地で消滅したり、また環境整備によって復活したところもあります。世界的に数が限られ、日本の固有種とも言える野鳥です。オオセッカの遊水地からの消滅は、絶対に避けたいものと思います。

具体策として、とりあえず栃木市で、他の生物を含めた保護条例（又は規則）を制定し、その中でオオセッカの保護を決めたら良いでしょう。まずは繁殖地域への立ち入り禁止です。野田市の環境保護条例が参考になりませんか？しかし、規制はゆるくして、来遊者個々人が保護の必要性を理解し、オオセッカや生き物をを慈しみ、結果的に保護に到る、というのが良いと思います。

\* チュウヒの繁殖に関してですが、ヨシ焼き開始以前の経過や、先進繁殖地の地形、地勢、植生と、遊水地のそれらとは違いを調べる必要があります。昨季の繁殖調査では、谷中湖の浮島で7羽のチュウヒが盛んな鳴き交わしやディスプレイフライトをしていたが、ヨシ焼き後は姿がなくなりました。ヨシ焼きの一部中止では繁殖できない？と感じています。偶発的なこともあるでしょうが、本来、習得した習性からはみ出して繁殖をするということは、稀有なことと言えるでしょう。なお、植生の遷移を抑えるためにもヨシ焼きは必要ですが、樹木の保全には心配りが必用だと思います。

\* 第2調節地で湿地再生工事が進行中です。治水と自然再生を両立させようとするものですが、ヨシ原の保全を念頭においておくことも必要です。

渡良瀬遊水地の本来のシンボルは、広大なヨシ原にあります。乾燥化が進んでいると言われているヨシ原にも、乾燥化したヨシ原に適応して、そこに棲む生き物が沢山います。その存在を無視しては、一方的な開発と言われかねません。人の手による自然再生は、一方では存在する自然の破壊に他ならないということを肝に銘じて置きたいと思います。

また、ここでは冬鳥であるチュウヒを渡良瀬遊水地のシンボルバードとしています。夏のヨシ原で無数に囀るオオヨシキリもシンボリックな存在だと思います。オオヨシキリを夏のシンボルバードとしてはいかがでしょう。そして、オオヨシキリ等草原の野鳥が生息、繁殖しているヨシ原の保全にも目配りが出来てきます。

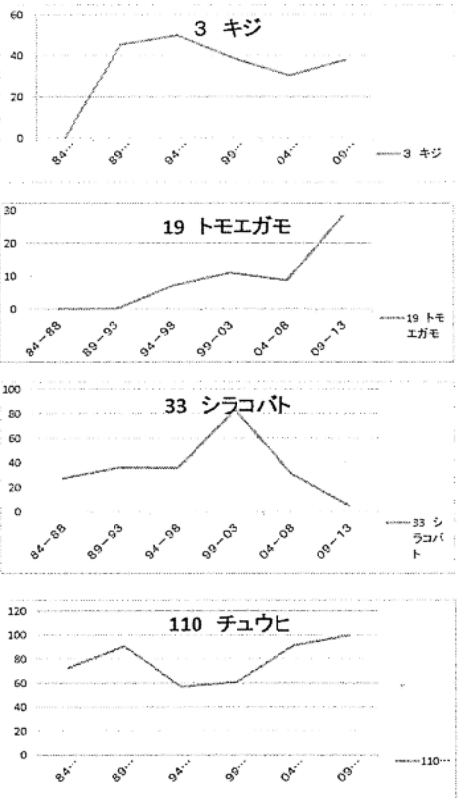
また、谷中湖の存在もあります。浮島を増設し、水鳥にとって居心地の良い条件を整え、そこに飛来する水鳥をシンボルバードとしても好いと思います。

\* 最後に一言、自然の摂理にそぐわない、根拠の不確かな、個人の願望のような理由とする自然の改変は一考を要します。このあたりで、自然とは？と自分に問いかけ見てはいかがですか。

(平成28年2月24日)

番号	種名	年度	谷中湖周辺探鳥コースにおける出現回数(1, 3, 10, 11, 12月/年)							出現率(%)=出現回数/調査回(1回出現5回間=1回9%)						
			84-88	89-93	94-98	99-03	04-08	09-13	トータル	84-88	89-93	94-98	99-03	04-08	09-13	
1	ウスラ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0	
2	コジュケイ		0	3	2	2	2	2	11	0	27	14	11	9	10	
3	キジ		0	5	7	7	7	8	34	0	45	50	39	30	38	
4	マガン		0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	11	0	0	
5	コクガン		0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	11	0	0	
6	コハクチョウ		0	1	0	1	1	2	5	0	9	0	6	4	10	
7	オオハクチョウ		0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5	
8	ツクシガモ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9	オンドリ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0	
10	オカヨシガモ		1	2	3	12	12	6	36	9	18	21	67	52	29	
11	ヨシガモ		0	2	3	11	17	18	51	0	18	21	61	74	86	
12	ヒドリガモ		7	6	8	16	23	21	81	64	55	57	89	100	100	
13	アメリカヒドリ		1	1	1	3	4	1	11	9	7	17	17	5		
14	マガモ		7	6	9	15	23	21	81	64	55	64	83	100	100	
15	カルガモ		11	10	14	17	23	21	96	100	91	100	94	100	100	
16	ハンビロガモ		5	5	10	16	18	7	61	45	45	71	89	78	33	
17	オナガガモ		11	7	9	13	20	16	76	100	64	64	72	87	76	
18	シマアジ		2	0	0	0	0	1	3	13	0	0	0	0	5	
19	トモエガモ		0	0	1	2	2	6	11	0	0	7	11	9	29	
20	コガモ		11	10	10	16	23	21	91	100	91	71	89	100	100	
21	ホシハジロ		5	2	7	8	8	4	34	45	16	50	44	35	19	
22	キンクロハジロ		4	2	6	8	11	11	42	35	18	43	44	48	52	
23	スズガモ		0	1	1	6	3	3	14	0	9	7	33	13	14	
24	ホオジロガモ		0	0	1	2	3	3	9	0	0	7	11	13	14	
25	ミコアイサ		2	3	4	6	14	13	42	13	27	29	33	61	62	
26	カワアイサ		2	2	6	4	7	6	27	13	16	43	22	30	29	
27	カイツブリ		6	7	9	16	23	21	82	55	64	64	89	100	100	
28	アカエリカイツブリ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
29	カンムリカイツブリ		2	5	7	11	15	18	58	18	45	50	61	65	86	
30	ミミカイツブリ		0	0	1	1	1	0	3	0	0	7	6	4	0	
31	ハジロカイツブリ		1	1	4	11	10	13	40	9	9	29	61	43	62	
32	シラコバト		11	11	14	18	23	21	98	100	100	100	100	100	100	
33	シラコバト		3	4	5	15	7	1	35	27	36	36	83	30	5	
34	アオハム		0						0	0	0	0	0	0	0	
35	オオハム		0						0	0	0	0	0	0	0	
36	シロエリオオハム		0						0	0	0	0	0	0	0	
37	カウウ		3	7	12	18	23	21	84	27	64	86	100	100	100	
38	ヨシゴイ		0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	11	0	0	
39	オオヨシゴイ		0						0	0	0	0	0	0	0	
40	ゴイサギ		0	2	4	0	0	0	6	0	18	29	0	0	0	
41	ササゴイ		0	0	2	2	0	0	4	0	0	14	11	0	0	
42	アマサギ		2	0	2	0	0	0	4	16	0	14	0	0	0	
43	アササギ		11	9	10	16	23	21	90	100	82	71	89	100	100	
44	ダイサギ		11	10	14	15	23	21	94	100	91	100	83	100	100	
45	チュウサギ		4	0	0	0	0	0	4	36	0	0	0	0	0	
46	コサギ		10	11	12	15	21	7	76	91	100	86	83	91	33	
47	クロツラヘラサギ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0	
48	クイナ		2	0	0	0	1	0	3	18	0	0	0	4	0	
49	ヒクイナ		0						0	0	0	0	0	0	0	
50	バン		4	1	2	4	4	2	17	36	9	14	22	17	10	
51	オオバン		2	0	1	10	13	18	44	18	0	7	56	57	86	
52	ジュウイチ		0						0	0	0	0	0	0	0	
53	ホトギス		0	0	1	0	0	0	1	0	0	7	0	0	0	
54	ツドリ		0	0	0	0	1	2	3	0	0	0	0	4	10	
55	カウウ		0	1	4	2	0	0	7	0	9	29	11	0	0	

出現率状況



56	ヨタカ		0						0	0	0	0	0	0	0
57	ハリオアマツバメ		0						0	0	0	0	0	0	0
58	アマツバメ		1	5	2	1	0	1	10	9	45	14	6	0	5
59	ヒメアマツバメ		0	1	0	0	0	0	1	0	9	0	0	0	0
60	タゲリ		0	1	4	7	3	6	21	0	9	29	39	13	29
61	ケリ		0						0	0	0	0	0	0	0
62	ムナグロ		2	1	0	0	0	0	3	18	9	0	0	0	0
63	ダイゼン		2	1	0	1	1	0	5	16	9	0	6	4	0
64	イカルチドリ		0	1	0	2	3	0	6	0	9	0	11	13	0
65	コチドリ		6	0	1	3	4	4	18	55	0	7	17	17	19
66	シロチドリ		3	3	1	2	2	2	13	27	27	7	11	9	10
67	メダイチドリ		0						0	0	0	0	0	0	0
68	ヤマシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
69	オオジシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
70	タンシギ		6	4	0	6	0	1	17	55	36	0	33	0	5
71	オオハシシギ		0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	6	0	0
72	オダシシギ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0
73	オオリハシシギ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0
74	チュウシャクシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
75	ダイシャクシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
76	ツルシギ		3	2	1	2	0	0	8	27	18	7	11	0	0
77	アカアシシギ		1	1	0	0	0	0	2	9	9	0	0	0	0
78	コオアシシギ		1	0	0	1	0	0	2	9	0	0	6	0	0
79	アアシシギ		4	2	2	3	1	1	13	36	18	14	17	4	5
80	クナシギ		1	0	0	1	0	0	2	9	0	0	6	0	0
81	タカブシギ		4	0	1	0	0	0	5	36	0	7	0	0	0
82	キアシシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
83	ソリハシシギ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0
84	イソシギ		4	1	1	11	6	1	24	36	9	7	61	26	5
85	キョウジョシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
86	トウネン		2	0	0	0	0	0	2	18	0	0	0	0	0
87	ヒバリシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
88	ウズラシギ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0
89	ハマシギ		4	0	3	3	5	1	16	36	0	21	17	22	5
90	キリアイ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0
91	エリマキシギ		1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0
92	アカエリヒレアシシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
93	タマシギ		0						0	0	0	0	0	0	0
94	ツバメチドリ		0						0	0	0	0	0	0	0
95	ミツユビカモメ		0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	6	0	0
96	ユリカモメ		6	2	4	5	11	9	37	55	18	29	28	48	43
97	ウミネコ		0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
98	カモメ		0	0	0	1	1	1	3	0	0	0	6	4	5
99	セグロカモメ		1	2	3	15	20	17	58	9	16	21	83	87	81
100	オオセグロカモメ		0	0	1	1	0	0	2	0	0	7	6	0	0
101	コアジサシ		2	2	5	4	0	0	13	18	16	36	22	0	0
102	アジサシ		0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	6	0	0
103	クロハラアジサシ		0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
104	ハジロクロハラアジサシ		0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	6	0	0
105	シロハラトウゾクカモメ		0						0	0	0	0	0	0	0
106	ミサゴ		3	4	3	9	19	16	54	27	36	21	50	83	76
107	ハチクマ		0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	6	0	0
108	トビ		10	11	10	16	23	21	91	91	100	71	89	100	100
109	オジロワシ		0	1	0	0	0	0	1	0	9	0	0	0	0
110	チュウヒ		8	10	8	11	21	21	79	73	91	57	81	91	100



111	ハイロコチュウヒ	1	3	0	4	7	2	17	9	27	0	22	30	10
112	ツミ	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
113	ハイタカ	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
114	オオタカ	1	3	5	5	9	3	31	9	27	36	28	39	38
115	サシバ	2	1	2	1	0	0	6	18	9	14	6	0	0
116	ノスリ	4	7	11	10	20	20	72	36	64	75	56	87	95
117	クマタカ	0						0	0	0	0	0	0	0
118	アオバズク	0						0	0	0	0	0	0	0
119	トラフズク	0						0	0	0	0	0	0	0
120	コミズク	0						0	0	0	0	0	0	0
121	カウセミ	0	4	5	6	11	8	34	0	36	36	33	48	38
122	ヤマセミ	0						0	0	0	0	0	0	0
123	アリスイ	0	0	0	0	3	2	5	0	0	0	0	13	10
124	コゲラ	0	0	0	1	3	6	10	0	0	0	6	13	25
125	オオアカゲラ	0						0	0	0	0	0	0	0
126	アカゲラ	0	0	1	1	6	8	16	0	0	7	6	26	36
127	アオゲラ	1	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0
128	チョウゲンボウ	9	5	5	5	10	9	43	82	45	36	28	43	43
129	コチョウゲンボウ	0	0	0	1	1	1	3	0	0	0	6	4	5
130	チゴハヤブサ	0						0	0	0	0	0	0	0
131	ハヤブサ	0	2	1	5	4	15	27	0	18	7	28	17	71
132	サンショウクイ	0						0	0	0	0	0	0	0
133	サンコウチョウ	0						0	0	0	0	0	0	0
134	モズ	8	11	13	18	22	18	80	73	100	93	100	96	86
135	カケス	3	3	2	1	2	2	13	27	27	14	6	9	10
136	オナガ	8	8	10	7	10	5	46	73	73	71	39	43	24
137	コクマルガラス	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	9	0
138	ミヤマガラス	0	0	0	0	3	2	5	0	0	0	0	13	10
139	ハンボソガラス	11	11	14	18	23	21	86	100	100	100	100	100	100
140	ハンピトガラス	9	10	14	18	23	21	85	82	91	100	100	100	100
141	キウイタダキ	0						0	0	0	0	0	0	0
142	ツリスガラ	0						0	0	0	0	0	0	0
143	コガラ	0						0	0	0	0	0	0	0
144	ヤマガラ	0	0	0	0	2	2	4	0	0	0	0	9	10
145	ヒガラ	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4	0
146	シジュウカラ	2	2	3	9	20	21	57	18	18	21	50	87	100
147	ヒバリ	11	11	14	15	16	10	77	100	100	100	83	70	48
148	シヨウドウツバメ	6	5	4	1	2	2	20	55	45	29	6	9	10
149	ツバメ	8	8	8	8	5	5	42	73	73	57	44	22	24
150	コシアカツバメ	0						0	0	0	0	0	0	0
151	イワツバメ	1	2	0	0	0	0	3	9	18	0	0	0	0
152	ヒヨドリ	9	10	11	18	23	21	92	62	91	79	100	100	100
153	ウグイス	0	4	6	8	18	18	54	0	36	43	44	78	86
154	ヤブサメ	0						0	0	0	0	0	0	0
155	エナガ	0	0	0	0	1	4	5	0	0	0	0	4	19
156	メボソムシクイ	0						0	0	0	0	0	0	0
157	エゾムシクイ	0						0	0	0	0	0	0	0
158	センダイムシクイ	0						0	0	0	0	0	0	0
159	メジロ	0	0	0	2	6	4	12	0	0	0	11	26	19
160	シマセンニュウ	0						0	0	0	0	0	0	0
161	オオヨシキリ	2	1	5	2	1	0	11	18	9	36	11	4	0
162	コヨシキリ	1	2	5	2	0	0	10	9	18	36	11	0	0
163	セッカ	9	4	5	4	4	1	27	82	36	36	22	17	5
164	キレンジャク	0						0	0	0	0	0	0	0
165	ヒレンジャク	0						0	0	0	0	0	0	0

166	ゴジュウカラ	0						0	0	0	0	0	0	0
167	ミソサザイ	0						0	0	0	0	0	0	0
168	ムクドリ	10	11	14	18	22	15	94	91	100	100	100	96	90
169	コムクドリ	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	6	0	0
170	カウガラス	0						0	0	0	0	0	0	0
171	トラツグミ	0						0	0	0	0	0	0	0
172	シロハラ	0	0	0	2	1	4	7	0	0	0	11	4	19
173	アカハラ	0	1	0	2	0	3	8	0	9	0	11	0	14
174	ツグミ	5	5	6	14	19	17	65	45	45	43	78	83	81
175	ノハラツグミ	0						0	0	0	0	0	0	0
176	コマドリ	0						0	0	0	0	0	0	0
177	コルリ	0						0	0	0	0	0	0	0
178	ルリビタキ	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
179	ジョウビタキ	2	1	2	5	20	20	50	18	5	14	28	87	95
180	ビタキ	4	2	0	0	0	0	5	36	18	0	0	0	0
181	インビヨドリ	0						0	0	0	0	0	0	0
182	エゾビタキ	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4	0
183	サメビタキ	0						0	0	0	0	0	0	0
184	ニサメビタキ	0						0	0	0	0	0	0	0
185	キビタキ	0						0	0	0	0	0	0	0
186	オジロビタキ	0						0	0	0	0	0	0	0
187	オオルリ	0						0	0	0	0	0	0	0
188	カヤクグリ	0						0	0	0	0	0	0	0
189	ニューナイスズメ	0						0	0	0	0	0	0	0
190	スズメ	11	11	14	18	23	21	98	100	100	100	100	100	100
191	キセキレイ	1	2	1	0	2	1	7	9	18	7	0	9	5
192	ハウセキレイ	7	8	9	17	23	21	85	64	73	64	94	100	100
193	セウロセキレイ	9	4	9	9	11	14	58	82	36	64	50	48	67
194	ビンズイ	0						0	0	0	0	0	0	0
195	タヒバリ	4	4	6	12	15	8	49	36	36	43	67	65	38
196	アトリ	0						0	0	0	0	0	0	0
197	カウラヒウ	10	11	10	13	20	20	84	91	100	71	72	87	95
198	マヒワ	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	4	5
199	ベニマシコ	0	0	4	6	17	17	44	0	0	29	33	74	81
200	オオマシコ	0						0	0	0	0	0	0	0
201	ウソ	0						0	0	0	0	0	0	0
202	シメ	0	1	3	8	14	17	43	0	9	21	44	61	81
203	コイカル	0						0	0	0	0	0	0	0
204	イカル	0						0	0	0	0	0	0	0
205	ホオジロ	8	11	14	17	23	21	94	73	100	100	94	100	100
206	ホオアカ	0						0	0	0	0	0	0	0
207	コホオアカ	0						0	0	0	0	0	0	0
208	カシラダカ	2	3	4	9	8	9	35	18	27	29	50	35	43
209	ミヤマホオジロ	0						0	0	0	0	0	0	0
210	アオジ	1	1	3	10	15	12	42	9	9	21	56	65	57
211	クロジ	0						0	0	0	0	0	0	0
212	コジュリソ	0						0	0	0	0	0	0	0
213	オオジュリン	2	4	6	15	20	20	67	18	36	43	83	87	95
214	トビ	0						0	0	0	0	0	4	90

※ 孵化期・5年間採鳥会費 11 11 14 18 23 21 98

変更は、30年間で採鳥会時に一度も確認されず。

谷中湖開湖オープン1991年(平成3年4月)